

近代和風建築 守れ 専門家ら支援

熊本豪雨

2020

7月豪雨で甚大な被害を受けた人吉市の人吉旅館と芳野旅館は、国登録有形文化財で人吉温泉を代表する近代和風建築として知られる。いずれも1階が全て浸水したため、専門家や建築士らが復旧支援に取り組んでいる。

書かれた紙が貼られ、従業員やボランティアらが床下の泥出しを進めていた。「建築当時の材料や技術は再現不可能。浸水した部材が再利用できるか、一つ一つ検討を重ねる必要がある」

8月下旬。人吉旅館では梁や土壁などに「保存」と



従業員やボランティアが床下の泥出しを進める芳野旅館 = 8月24日、人吉市

国登録有形文化財 人吉市の旅館2軒

浸水の部材 再利用検討へ

の磯田節子さん(70)＝熊本市＝は毎週現地に通り、貴重な部材を極力残すよう復旧工事のマネジメントを担う。

1934年創業の人吉旅館は木造2階建ての4棟(延べ床面積3073平方

球磨川沿いに面し、格子の欄間や白漆喰の壁など部屋ごとに異なる意匠が特徴的。床上4畳まで浸水したため1階は天井まで泥水に漬かり、全壊判定を受けた。

歴史的建造物の復旧には専門の知識や技術が必要



1階天井まで浸水した人吉旅館。壁や天井を落とした後、床下の泥出しをする女将の堀尾里美さん(右手前)や従業員ら＝8月24日、人吉市

で、職人の確保や多額な費用の捻出も課題だ。磯田さんをはじめ、歴史的建造物に詳しいヘリテージマネジャーらが7月中旬、両旅館の復旧支援プロジェクトチームを発足。修復方針や補助金申請の助言をしながら復旧を進めている。

国登録有形文化財の場合、修理時の設計監理費の公的助成はあるが、修理費は全て所有者負担となる。

両旅館は「なりわい再建補助金」を活用する予定だが、従業員を抱えて1年以上の休業を余儀なくされるため、資金面でも苦心している。

両旅館とも資金確保のためにクラウドファンディングを活用する。人吉旅館は来年8月に一部再開を目指しており、3代目女将の堀尾里美さん(62)は「チームの助けがなければお手上げだった」。芳野旅館5代目女将田口妙子さん(70)は「代々受け継いだ美術工芸品も被災した。建物の文化財部分だけでも残したい」と、来夏の営業再開を見据える。(魚住有佳)